

ヤマセミ（カワセミ科） 全長38センチ

雄物川と玉川の合流点付近で、久しぶりにヤマセミが観察されました。もともと生息数も少なく、警戒心が強く見つけても短時間で飛び去ってしまうことが殆どである。

伊豆山の並びに通称「なだら」と呼ばれる急斜面の崖がある。真下を雄物川が流れ直ぐ下流は玉川と合流し野鳥が良く観察されるポイントとなっている。

11月2日、雄物川の中州に流木があり、大きく張った枝先でヤマセミが見つかった。真下を流れる川面をじっと見つめていたが、一気に飛び降りた。戻ってきたクチバシには小さな魚をくわえていた。ここはヤマセミの狩場になっているのでしょう。翌日も同じ場所で見つかった。



白黒の模様が決まっている。(メス)

まもなくもう1羽が飛んできたので、つがいでしょうか。

お互い離れた枝に留まっていたが、1羽が飛び立つと別の1羽も後を追いかけて、水面すれすれに並んで飛び交った。なかなか見られない光景である。



雨にも負けず、じっと我慢。(オス)



雨上がりでも動きません。(オス)

周辺には繁殖できる土の崖がなく、もっと上流の繁殖地から下ってきたのでしょう。もう少し滞在してくれないかと期待しています。



狩りから戻ってきた。



キャラキャラと鳴きながら、水面を飛び交う。



食事のあとは、ペレットを吐き出した。



魚を狙って飛び降りた。(メス)